

台風第 26 号による土砂災害発生後の住民セミナー、および調査研究支援の取り組み

The resident seminar after the landslide disaster, and support of research.

西谷 香奈^{1*}; 加治屋 秋実¹; 中田 節也²; 中川 和之³
NISHITANI, Kana^{1*}; KAJIYA, Akimi¹; NAKADA, Setsuya²; NAKAGAWA, Kazuyuki³

¹ 伊豆大島ジオパーク, ² 東京大学地震研究所, ³ 時事通信社
¹ Izu Oshima Geopark, ² ERI, ³ Jiji Press Ltd.

平成 25 年 10 月 16 日、伊豆大島で大規模な土砂災害が発生し、その直後からマスメディアによる情報が洪水のように溢れた。しかし、それらは、必ずしも被災者やその周辺の住民が必要としている情報であるとは言えなかった。私たちは、住民の不安を少しでも解消するために、できるだけ早く、被災者や住民向けの情報の提供が必要であると考えた。また、何が起こったのかを正しく理解し、自分で自分の身を守る知恵を持つことも重要であると考えた。そこで、伊豆大島で長年、火山観測を続けてきた東大地震研究所と伊豆大島ジオパーク推進委員会とが共催で、災害から 1 ヶ月後の 1 月 17 日に、住民セミナーを開催した。セミナーには 160 名の住民が参加した。講義内容は以下の通りである。

川邊禎久氏

産業技術総合研究所地質調査総合センター主任研究員。

「伊豆大島火山のなりたち、過去の噴火、元町周辺の地質について。」

森田裕一氏

東京大学地震研究所地震火山噴火予知研究推進センター教授 (火山地震学)。

「伊豆大島の地下に蓄積するマグマと体に感じない小さな地震活動の関係。地震計でとらえた、10 月 16 日に発生した土砂災害によると思われる震動について。」

千葉達朗氏

アジア航測株式会社総合研究所技師長赤色立体地図の発明者。

「レーザー計測と赤色立体地図でわかった、伊豆大島の地形特に元町周辺の微地形。今回の災害後の 4 学会合同現地調査団の調査を踏まえ、現地写真を中心に速報的に崩壊発生状況等を紹介。」

中田節也氏

東京大学地震研究所火山噴火予知研究センター教授 (火山噴火岩石学)、日本ジオパーク委員会委員。

「今回の災害について開始した科学研究費研究の概要説明。ジオパークにおける防災や観光などのあり方などについて、島原半島、洞爺湖有珠山、霧島ジオパークの活動例を紹介。」

全体コーディネーターは中川和之氏 (時事通信解説委員・日本ジオパーク委員会委員)

参加者からは「不安な中でセミナーがありよかった (わかっているだけでも知ることができて良かった)」「専門家に寄り添ってもらい心強い」「大地は生きている、そういう場所に住んでいるのを認識した」「自然と共存するために、人間はもっと賢くならなければいけない」「地球ってすごく研究されているのだと感動」という声が聞かれた一方、「まだ不安。今どういう状態なのか、今後島がどうなるのか知りたい」「災害が起きた時の対処法や心構えを講義してほしい」という声もあった。

また、このセミナー開催がきっかけとなり、土砂災害に関する調査研究の支援の窓口が、伊豆大島ジオパーク推進委員会に作られた。これは、研究者が現地調査を行いやすいように情報提供、人物紹介、届け出、広報などの手伝いを行い、研究結果を住民に還元してもらおうという仕組みである。

ポスターでは、住民セミナーのまとめとともに、調査研究支援についての詳細を報告する。

キーワード: ジオパーク, 災害, 伊豆大島, 火山, 情報共有, 取り組み

Keywords: geopark, disaster, Izu-Oshima, volcano, information, measure